

巡回支援指導事業について

2.巡回支援指導員配置の効果

②保育施設との信頼関係の構築

～保育施設に寄り添い、良好な関係を構築策～

保育施設の中には、自治体からの立入調査や監査に警戒感を示す施設があるが、巡回支援指導という施設に寄り添った“支援”によって、自治体からの指導や助言が保育施設側に受け入れられてもらいやすくなっている事例がある。

ポイント

- 監査である立入調査と支援である巡回支援指導を切り離すことで、保育施設が安心して相談でき、事故防止や保育内容の改善等に向けた指導が浸透しやすくなる
- 認可保育園長経験者など保育の専門家である巡回支援指導員を配置することで、保育施設側の悩みに具体的な助言が可能になり、自治体が保育施設から頼ってもらえる存在に
- 毎年巡回支援指導を行うことで、巡回支援指導員と保育施設の間に信頼関係が生まれる



千葉県

監査とは切り離れた“支援”の位置づけにより保育施設側の抵抗感を軽減

巡回支援指導については、保育施設の監査業務とは一切切り離し、あくまでも保育施設に寄り添った“支援”と位置付けている。かつては、巡回支援指導を実施したい旨を保育施設に連絡すると、監査ではないかと警戒され断られることもあったが、監査とは切り離された“支援”であると丁寧に説明することで、施設側に受け入れてもらいやすくなり、事故防止や保育内容の改善等に向けた指導が浸透しやすくなるというメリットがある。巡回支援指導員は、主に安全面の指導・アドバイスを実施している。

また、認可外保育施設は他施設との連携や繋がりが少ない施設も多く、巡回支援指導は各保育施設が困っていることを相談できる場にもなっており、好評である。

具体的には、保育施設から「巡回支援指導員に施設の不安を聞いてもらってよかった」、「重大事故が発生しやすい場面、事故防止に対しての指導が参考になった」、「改善方法について具体的に実例をあげて教えていただいた」などという声をもらっている。



さいたま市

認可保育園長経験者の巡回支援指導員を配置

認可保育園長経験者から巡回支援指導員を選任することで、一般職員に不足しがちな経験や知見を補い、保育施設に対して適切な判断・指導・助言ができるようになる。

また保育施設側にも巡回支援指導員が認可保育園長経験者であると伝えることで、保育施設からの信頼を得やすくなり、指導や助言を施設側に受け入れてもらいやすくなる。